

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 3月 10日

【評価実施概要】

事業所番号	3671900417
法人名	株式会社 南海
事業所名	グループホーム いこいの家
所在地	徳島県三好郡東みよし市中庄801-3 (電話) 0883-82-1513
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年 3月 6日

【情報提供票より】(平成20年2月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 12月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 9人, 非常勤 10人, 常勤換算 赤とんぼ 6.6人, てまり6.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,500 円	その他の経費(月額)	光熱水費6,000円,その他実費
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	71 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・三加茂田中医院 ・市立三野医院 ・松浦委員 ・松浦歯科クリニック ・武田歯科医院
---------	---

徳島県 グループホームいこいの家 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は幹線道路から少し北に入った所に立地し、周囲は民家や田畑が広がり落ちついてゆったり過ごせる環境に恵まれている。新設されたホームの庭園には大きな六角堂が立ち長椅子が設置され、3時のおやつ時に利用したり、季節によっては遊山をかねてみんなで出かけたりしている。対岸で実施される花火大会を家族の方も一緒に観る等、ホーム独自の工夫もされている。また、ハード面の改善が家族からの要望にそって行われるなど、サービスの向上に前向きに取り組まれていた。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「案内文等への運営理念の記載」と「専門家による栄養面でのアドバイス」、「ホーム便りの発行」は改善されていない。それ以外の「運営理念を説明したことを確認できるサイン」や「介護計画を説明したことの記録」等の課題はすべて改善されていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は各ユニットの全職員が話し合いを重ね実施している。明らかになった課題等についても優先されるものから改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は2ヶ月に1回開催され、家族代表、地域包括支援センター職員、地域住民代表、老人クラブ会長、事業所の職員で構成されている。内容は、ホームの対応と状況、自己・外部評価結果等の報告、運営に関する課題、要望やその他苦情・意見について活発な意見交換が行われている。また、議事録も作成し、職員に回覧・サイン等ができています。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議や家族会、面会時等に出された意見はすべて記録されている。できるだけ早い時期に運営者、管理者、職員で話し合い、運営に反映している。また、不安への対応等、意見をそのままにせず家族等への結果報告も行っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣者の農作業時に豆のカラ抜きや草取りに参加したり、散歩時に立ち話しをしたり、近くの喫茶店を利用している。また、事業所の行事等を地元住民が手伝ったり、阿波踊りや芸能ボランティアの来訪もあり、相互交流に取り組んでいる。</p>

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は開所当初のものであり、地域密着型サービスとしての理念はつくられていない。	○	地域密着型サービスとしての理念への見直しに取り組まれない。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着・交流を重視した活動、支援には全職員で取り組んでいるが、地域密着型サービスとしての理念は作成できていない。	○	地域密着型サービスとしての理念のもとで、管理者・職員は理念を共有し、実践に向けて取り組まれない。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所の行事等はボランティアとして地元の人に手伝ってもらったり、畑の草取りを利用者が手伝ったりと相互交流がされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニットで話し合い、全職員で取り組んでいる。評価の意義も理解し、それを活かした具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催され、家族代表、地域包括支援センター職員、地域住民代表、老人クラブ会長、事業所の職員で構成されている。内容は、ホームの対応と状況、自己・外部評価結果等の報告、運営に関する課題、要望やその他苦情・意見について活発な意見交換が行われている。また、議事録も作成し、職員に回覧・サイン等ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は地域包括支援センターの担当者と運営推進会議以外に連携を図り行政への報告や相談等、サービスの質の向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所での利用者の暮らしぶりや行事報告、健康状態等を手紙等で報告している。金銭出納帳は家族の確認サイン等もなされていた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族の意見等は運営推進会議や家族会で活発に出され、運営に反映させている。内容は記録に残し、家族へ報告もされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者・管理者は異動や離職を必要最小限にする努力を行っている。利用者に理解してもらえるよう引継ぎ期間を十分にとり、家族にも職員の写真とコメントで報告している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者が管理者、職員の研修計画を立て受講できるよう取り組んでいる。参加者は、全職員が内容を共有できるよう報告書を回覧し、確認印・サインも実施されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域の事業所を訪ねたり、研修時に参加者と交流を図り情報の交換を行うなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを利用できるよう家族・ケアマネジャーと相談し、職員が家庭を訪問したり、日中のみを利用するなど、少しずつ環境や職員・他の利用者と馴染めるよう工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者・職員は家族のように、風習や行事(しめ縄作り)等を教えてもらっている。職員が利用者対応に困っている時、他の利用者がアドバイスや対応と一緒にされる等、共に支え合う関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握が困難な利用者は、日々の生活の会話や態度等から何をしたいのかを把握したり、必要な関係者や家族と話し合うなど、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意向は電話や面会時に必要な関係者と話し合い、気付きや意見、アイデアを出し合っている。話し合った結果、利用者本位の介護計画となるよう作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じた定期的な見直しと状態変化や家族の要望等の実情に即した随時の見直しもされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の状況・要望に応じて通院や外泊時の送迎等、家族と話し合って柔軟な支援をされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の要望に応じ、かかりつけ医への受診、緊急時等も家族と相談し通院の方法、情報の伝達方法等話し合い、適切な医療を受けられるよう支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針の共有は一部の者のみで、すべての利用者、家族との話し合いが行われていない。	○	利用者・家族が安心してサービスを利用できるように、早い時期から話し合い、日常の健康管理や、急変時に対応できるよう統一した方針の共有を図られることが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した声かけや対応がされ、すべての職員が個人情報保護法を理解し秘密保持の徹底が図られ、運営規程の中にも明示されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ニーズを優先し、一人ひとりがどのように過ごしたいか等の希望を聞き、その人らしい暮らしの支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や調理、食事、後片付け等、それぞれの分野で利用者の力を活かせるよう支援している。また、職員も同じものを一緒に食べながら、さりげない介助が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日のホームのローテーションは定めているが、利用者の希望や入浴を拒む人などに対しては、タイミングを合わせ支援したり、体調・気分等に合わせ足浴や清拭等、利用者本位の支援を心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の力量に合わせて食材の購入に同行するなど家事を分担したり、習慣や希望を活かし習い事の披露や指導者となってもらったりしている。また、新設された隣接する庭でのお茶会を楽しみ、気晴らしの支援をされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候、体調に配慮しながら散歩や買い物、庭や畑の草取り、外食や喫茶店を利用している。時には隣の農作業に飛び入り参加し、交流を図るなど多彩で一人ひとりの希望にそった支援がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者・全職員は鍵をかけることの弊害を理解し、日中・居室・玄関には鍵はかけていない。利用者家族の希望により2F階段には鍵をかけることがある。(ハード面に課題、階段が急で転倒の危険性がある)	○	利用者の安全面に配慮しながら、2階にも鍵をかけないケアができるよう工夫されたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の訓練は定期的実施している。昼夜を問わず利用者が避難できるよう繰り返し実施し、地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。マニュアル等も整備しファイルされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については高齢者向けソフトを導入し、それを基に作成されている。栄養の専門的な方のアドバイス等は受けられていない。また、水分補給については把握されているが記録されてない。	○	高齢者向けソフトを導入して献立作成されているが、栄養・量等専門的観点から助言を受けられたい。水分摂取量についての記録を残されることが望ましい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はいずれも使いやすい配置や馴染みの物を取り入れられている。壁の装飾等は利用者・職員と一緒に作った物や、家族の方等の手作り作品等で季節を感じ、居心地よく過ごせる工夫もされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使用されていた家具や小物が一人ひとり持ち込まれ、個性のある部屋作りがされている。利用者の趣味や楽しみを活かしたカレンダーや韓流スターの写真等を貼るなど自分らしさが表現されていた。		